

人が活きる環境の創造



人が活きる環境の創造

確かな品質と安全性を追求した創造性豊かな製品・サービスを社会に提供し、
新しい価値・市場・トレンドの創造に挑戦し続けます。

CONTENTS

モノ・コトづくりのクオリティの追求	052
イノベーションの推進と新しい価値の創造	064
品質管理の徹底	070
ものづくりを支える人財育成	071

人が活きる環境の創造

モノ・コトづくりのクオリティの追求

オカムラグループは、「よい品は結局おトクです」をモットーに、グローバルな視野で品質と安全性の向上に努めると同時に、お客様のニーズに的確に対応しながら、オフィスをはじめ教育・医療・研究・商業・物流施設などさまざまなシーンにおいて、製品のあるべき姿と最適な空間づくりを追求し続けます。

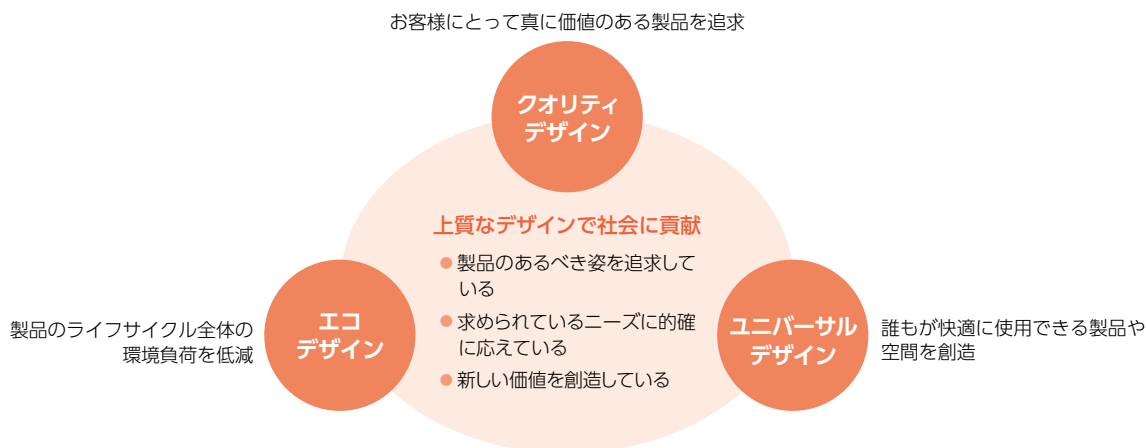
オカムラグループのデザインポリシー

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感でき、次代へよりよい環境を引き継げるよう、ものづくりにこだわり、上質なデザインの実現をめざしています。

創業以来「人間の環境づくり」をテーマに培ってきたハードとソフト

トに関するノウハウをベースに、さまざまなシーンにおいて魅力ある環境を創造していきます。その実現のためには、「クオリティデザイン」「エコデザイン」「ユニバーサルデザイン」の3つの視点が重要であるという考えに基づき、製品開発を進めています。

オカムラグループのデザインポリシー



クオリティデザインの追求

オカムラグループは製品の本質を追求し、お客様にとって真に価値ある製品を提供することをめざしています。製品のあるべき姿を求めて、ものづくりを極め、魅力ある新たな価値を創造します。具体的には、安全性の確保はもとより、人間工学*に基づいた設計をはじめ、快適性の向上、創造性を高める環境の実現などに

取り組み、常にお客様のニーズに的確に応えられるような製品開発を行っています。

* 人間工学: 人間の身体的、認知的、組織的な特性を理解し、様々な製品・環境・サービスに適応させるための科学分野

エコデザインの追求

オカムラグループは、原材料の選択から使用後の処理まで、製品のライフサイクル全体において環境負荷がより少ない製品を開発し、お客様に提供することで、持続可能な社会づくりに貢献します。そのために、製品の企画・デザイン・設計の各段階で製

品アセスメント*を実施するとともに、独自の環境基準による認定を行っています。(関連→P.97)

* 製品アセスメント: より環境負荷の小さい製品を開発するために、製品の開発、設計段階で、その製品が環境に与える影響を評価すること

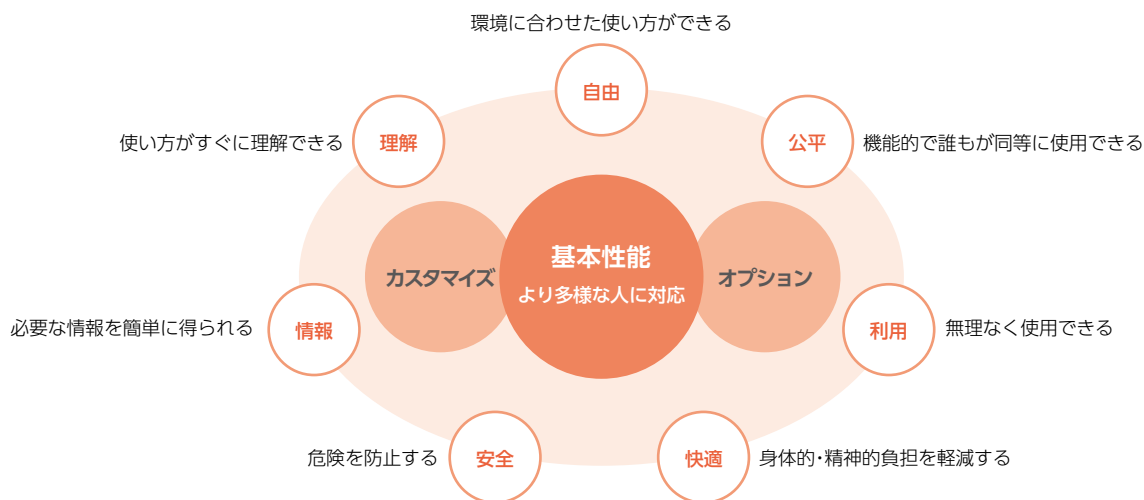
人が活きる環境の創造

ユニバーサルデザインの追求

オカムラグループは、誰もが豊かさを実感できるデザインを追求し、製品と空間を使用すると考えられる多様な人を想定して開発を行っています。製品の基本性能を高めるとともに、オプション

の追加やカスタマイズにより、安全性や快適性、適応性、わかりやすさ、情報へのアクセスなど、すべてのユーザーにとって使いやすい製品と空間を提供することをめざしています。

オカムラグループのユニバーサルデザインの考え方



ユニバーサルデザインの普及に向けた取り組み

オカムラは、一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD) に設立時より参画し、国際会議への協賛や協議会活動への支援を行っています。同協議会は、ユニバーサルデザインのさらなる普及と実現を通じた、社会の健全な発展と豊かな暮らしづくりをめざして活動しています。

TOPICS



「BEST OF DECADE universal design company」を企業として受賞

オカムラは、ドイツの「UNIVERSAL DESIGN competition 2021」において、ユニバーサルデザインの原則と哲学に則り長年貢献してきた企業に与えられる「BEST OF DECADE universal design company」を受賞しました。

「UNIVERSAL DESIGN competition」は、誰もが使いやすいというユニバーサルデザインの視点に、革新性や市場性などを加味した審査基準により選定される、国際的に権威のあるデザイン賞です。オカムラはこのデザイン賞に長年にわたり参加し、国内では業界最多となる累計24件の受賞をしており、企業としてユニバーサルデザインに基づいた製品開発の功績が高く評価されました。



人が活きる環境の創造

デザインポリシーに基づくモノづくり

働き方の変化に対応した製品の開発

働き方改革やコロナ禍など社会の動向は、オフィスの役割や働き方にも変化をもたらしています。オカムラが実施した調査では、ニューノーマルにおいてオフィスに求められるのは、チームワークを高める場、従業員同士がコミュニケーションをとるための場としての役割、という声が多くあげられました。こうしたニーズを踏まえ、オカムラでは、プロジェクトやチームでの作業の際に、スピード感を持ってより大きな成果を生み出すための場づくりをサポートするクリエイティブファニチュア「SPRINT(スプリント)」を開発しました。さまざまな機能を持ち移動させることができるスタンド、ワゴン、テーブル、スツールを組み合わせることにより、作業内容や参加人数に応じた環境の最適化、メンバー間のアイデアの共有、議論のプロセスの「見える化」などを促し、チームワークの向上を支援します。

また、コミュニケーションの活性化などの観点から、柱や仕切りの少ないオープンオフィスが主流になる一方で、時には一人または少人数で、集中して仕事をしたいと感じるワーカーが増えています。さらに、在宅ワークや対面を避けた打合せが増加し、Web会議でコミュニケーションをとる機会が増えています。こうしたことから、オープンオフィスの特性を生かしつつ集中しやすい環境を実現するため、オカムラではガラスや吸音材のパネルで囲ったさまざまなワークブースを提案しています。マルチワークブース「co-comori(ココモリ)」は、再生材のフェルトで作られたパネルで囲い、ソファ、テーブルなどを組み合わせて圧迫感のないこもり感を実現したワークブースです。さまざまなシーンでワーク

ブースの需要が高まる中、小さいスペースでも手軽に設置することが可能です。製品を小型化・軽量化し、材料使用量の削減による環境負荷低減にも取り組んでいます。

オカムラは、多様化する働き方にきめ細かく対応し、より快適で効率的に働ける環境の実現をサポートするため、さまざまな製品を開発していきます。



クリエイティブファニチュア「SPRINT」



マルチワークブース「co-comori」

オフィスを健康的に働く空間にバージョンアップ

企業における健康経営推進の重要性への認識が高まる中、オカムラは健康経営オフィスの実現を支援するために、経済産業省が推奨する「健康を保持・増進する7つの行動」(快適性を感じる、コミュニケーションする、休息・気分転換する、体を動かす、適切な食行動をする、清潔にする、健康意識を高める)を誘発するオフィスファニチュアシリーズ「PARK WORK(パークワーク)」を開発しました。

「健康を保持・増進する7つの行動」が行われる場所としてイメージしたのが、ニューヨークのセントラルパークです。働く人たちが安らぎを求めて運動したり、食事をしたり、休憩したり、おしゃべりしたりするために集まる場所。公園には高低差があり、木や草が植えられ、ベンチや遊具なども設置されています。そのようなオフィス環境を作るために、高さの違うベースユニットの幅と奥行きを900mmに統一し、組み合わせによって多様なレイアウト

ができるようにしました。シリーズは、ベンチやデッキ、ストレッチポール、バランスボール等のアイテムで構成され、ワーカーがそれぞれのスタイルで健康的に働ける公園のような空間を実現します。



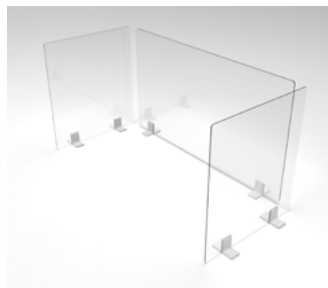
オフィスファニチュアシリーズ「PARK WORK」

人が活きる環境の創造

コロナ禍でのオフィス環境整備や在宅ワークをサポート

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの企業がオフィスや施設での対面業務への対策を進めるとともに、在宅勤務をはじめとするリモートワークを導入しています。こうした状況を踏まえ、オカムラは、デスクやテーブルに置いて前面や側面を物理的に隔てる「飛沫拡散防止デスクトップ仕切りパネル」を、2020年5月に発売しました。本製品は耐薬品性に優れ、次亜塩素酸ナトリウムを含む消毒剤やアルコール系消毒剤の使用が可能な塩化ビニル樹脂を素材とし、口元が隠れる高さにサイズを設定するなど使いやすい設計を行い、多くの企業で導入いただいています。

また、2020年12月には、自宅にコンパクトで機能的な在宅ワーク環境をつくることをサポートするため、スリムなテーブルや折り畳みできるチェア、荷物を収納するワゴンなどの在宅テレワークサポートツール「VIVANT(ヴィヴァント)」を発売しました。企業・法人のお客様には、従業員が在宅ワーク用の家具を購入できるプログラムサービス「Okamura for e-Biz(オカムラ フォー イービズ)」を提供し、在宅ワークの定着化と従業員満足度向上の施策を支援しています。



「飛沫拡散防止デスクトップ仕切りパネル」



在宅テレワークのサポートツール「VIVANT」

TOPICS



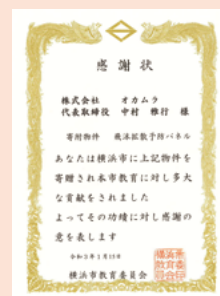
飛沫拡散防止のパネルを横浜市立岡村小学校へ寄贈

新型コロナウイルス感染拡大による影響がさまざまな領域に及び中で、子どもたちのために何かできないか、という従業員の想いから、学校に適した飛沫拡散防止のパネル作成に取り組みました。試作したダンボール製と樹脂製の2種類のパネルを使って、学校で検証を行いたいと横浜市の教育委員会に相談したところ、オカムラ創業の地である横浜市磯子区岡村にある岡村小学校をご紹介いただきました。検証の結果、ダンボール製・樹脂製にそれぞれ向いている使用方法があることがわかりました。特に樹脂製のパネルは使用時の安全性等を考慮して、パネルの周りにゴムをつける、学校の机に乗るサイズにする、重ねて収納ができるなどの工夫をし、学校用として使い勝手のよいパネルとなりました。

協力いただいた岡村小学校には、飛沫拡散防止のパネルを寄付し、図書室や家庭科室などで使用いただいています。教職員の方からは、「飛沫拡散防止対応として図書室に導入したパネルは透明度が高く、十分な高さがあり効果的です。転倒防止用のスタンドもついていて安定感があり、さらに滑り止めが加工されているので少し触っても動かず便利です。子どもたちも安心して読書に集中しています。その他にも、保護者と教職員が直接対面するシーンでも活用しています。」という声をいただきました。また、横浜市教育委員会より寄付に対する感謝状をいただきました。



飛沫拡散防止のパネルを使用している図書室



人が活きる環境の創造

学校教育のニーズ対応、充電時の電力負荷を抑えた 「タブレット・PC充電保管庫」の開発

オカムラでは、学校における学習環境の向上に貢献するため、教育施設向けの什器の開発に力を入れてきました。2019年12月に文部科学省が「GIGAスクール構想」*を打ち出したことを受け、全国の小・中学校、高等学校、特別支援学校等で使用されるICT端末の保管・充電を行う「タブレット・PC充電保管庫」を開発しました。

「タブレット・PC充電保管庫」は、保管庫内のタブレットやパソコンを4グループに分け、自動で各グループ10分毎に充電する輪番充電方式を採用しており、充電時の電力負荷を抑えることができます。端末を5台ずつトレイに保管するオカムラ独自のトレイ式は配布・回収がしやすく、児童・生徒が密集することなく出し入れができます。また、教室で利用する際の状況を想定して、扉にはユニバーサルデザインの取っ手を付け、保管庫本体の角を丸く仕上げて児童・生徒の安全面に配慮するなど、デザインにおいても十分に配慮をしました。

*「GIGAスクール構想」:多様な子どもたちの資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現すること、ICTのベストミックスにより教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことをめざし、文部科学省が推進する施策



「タブレット・PC充電保管庫」



5台ずつトレイで保管、輪番充電式を採用

eスポーツ市場におけるプレイ環境向上をサポート

オカムラは、拡大し続けるeスポーツ市場におけるプレイ環境向上を目指してゲーミングファニチュア「STRIKER(ストライカー)」を開発しました。

近年規模が急拡大しているeスポーツ市場では、プロ競技大会が開催されるeスポーツ専用施設や専用スペースが数多く開業・設置されているほか、オンラインという特徴を生かして家庭でも幅広い世代に楽しまれています。

eスポーツにおいてプレイ環境は、プレイヤーが長時間快適な姿勢でゲームに集中するための重要な要素です。オカムラは、ゲームジャンルやキーボード・マウス・コントローラーなどのデバイスの違い、プレイスタイルなどによるさまざまな姿勢を調査・分析し、これまでの研究結果や人間工学に基づいたゲーミングファニチュアを開発しました。オフィス家具の開発・製造技術を生かし、高品質な製品を提供することにより、長時間の使用でも疲れにくく、快適なプレイ環境をサポートします。



ゲーミングファニチュア「STRIKER」

人が活きる環境の創造

医療技術の進歩に貢献、ロボット支援手術用チェアの開発

オカムラでは、病院やクリニック、介護施設向けの家具の製造・販売や空間設計を行っており、医療施設等において調査・研究を実施しながら製品開発を進めています。

2020年12月、株式会社メディカロイドと国立大学法人神戸大学と共同で、株式会社メディカロイド製の手術支援ロボットシステム「hinotori™サージカルロボットシステム」用のチェアとして「kumpel(クンペル)」を開発しました。ロボット支援による手術は、長時間にわたりスコープを覗く姿勢をとりながら手と足で細かな操作を頻繁に行うため、作業姿勢の調査を行い、手術を行う人の負担軽減と操作性向上を目的としたチェアを開発しました。

長時間の作業でも疲れにくいように、座った際に骨盤を立たせて正しい姿勢をサポートし、フットペダル操作時に足を動かしやすいように、座は5度前傾します。背座一体型のシートは、快適に手術作業ができるよう腰を包み込む背もたれと、腿裏を圧迫しない座面形状を追求しました。また、フットペダルを操作しやすいように座の奥行きを短くし、先端をV字形状にするなどの、さまざまな工夫を盛り込みました。



ロボット支援手術用チェア「kumpel」

TOPICS

店舗づくりのパートナーとして、
お客様のSX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)に貢献

広島県を中心に岡山県・山口県で全62店舗のスーパーマーケットを展開する株式会社フレスタ様は、「食」を提供する地域のインフラとして、さまざまな環境・社会活動を行っています。近年ではSDGsの観点から、地域のサステナブルな発展に向けた店舗づくりを推進しています。

オカムラは、「フレスタ中筋店」新規出店に際し、フレスタ様と「地域×サステナブル」をキーワードに打合せを重ね、広島県産木材の店舗内装への活用や、地域の子どもたちが木の香りや温もりに触れることができるキッズスペースを提案。広島県林業課や専門機関とも協議を行いながら、店舗づくりをサポートしました。

2020年11月、フレスタ中筋店オープンと同時に、イートイン&くつろぎの空間として、広島県初となる木育キッズスペース完備の「フレスタの森」もオープン。子どもからお年寄りまで、地域の皆様から親しまれる店舗となっています。

また、フレスタ様では複数の店舗で、ショーケースや冷凍機、照明や空調など店舗全体の電力消費の抑制を支援する、オカムラのショーケースナビゲーションシステム「オスコム」を導入いただいており、店舗の省エネルギー化を実現しています。

オカムラは、次世代の商環境をともに考えるパートナーとして、店舗づくりを通じてお客さまの事業課題解決をサポートします。



店内の様子



木育キッズスペース「フレスタの森」



店舗の環境取り組みを見える化

人が活きる環境の創造

自律移動ロボットの開発と実用化に向けた取り組み

物流センターや倉庫など多くの荷物を扱う物流施設内において、作業の自動化が進められています。オカムラは、モノを単純に動かす・運ぶという作業の自動化を実現するため、自律移動ロボット「ORV(Okamura Robot Vehicle)」を開発しました。

物流施設内で使用されている従来の無人搬送車は、床面に軌道となる経路テープやマーキングが必要なため、走行軌道の変更には手間がかかる、軌道上の障害物を避けて走行できないといった課題があります。「ORV」は、センサーで周囲の環境を把握し、周辺地図の作成と自己位置推定を行うSLAM(Simultaneous Localization and Mapping)の技術を活用し、人工知能(AI)によってカゴ車を自動認識して取りに行き、目的地まで障害物を避けながら搬送します。牽引ではなく、カゴ車の片側を掴み上げることで、その場旋回など小回りが利く動作が可能です。実証実験を通して、「ORV」の使い勝手や運用ソフトなど、実用化に向けた検証を行っています。



自律移動ロボット「ORV」

TOPICS

環境に配慮した製品の開発

製品の軽量化は、調達、製造、物流等のプロセスにおけるエネルギー消費やCO₂排出量の削減をもたらします。また、製品の素材の単一化や再生材の使用は、資源循環の促進を通じて環境負荷低減に寄与します。こうした取り組みは、ユーザーにとっても製品使用時や使用後におけるメリットにつながります。

オフィスシーティング「CYNARA(シナーラ)」の開発プロジェクトは、世界最軽量のオフィスシーティングをめざしてスタートし、デザイン性や強度を保ちつつ、いかに軽量化を図るかということを考え開発を進めました。具体的には、背と座を一体のフレームにして、座が部分的に折れ曲がるようにした新しい機構を採用し、機構部のコンパクト化を実現しました。また、背座一体のフレームにメッシュを直接張り込むなどの工夫により、部材を減らしながら座り心地も維持することを可能にしました。こうした取り組みの結果、当社の従来のオフィスシーティングと比べ構造体部品重量を約50%削減し、製品のライフサイクルを通じたCO₂排出量を約35%削減することができました。

2020年にはこのほか、天板から脚までのすべてのパーツを単一素材のスチールで構成したテーブル「nel(ネル)」や、パネルの表面材に再生材のフェルトを使用し、製品を小型化・軽量化したマルチワークブース「co-comori(ココモリ)」など、さまざまな側面から環境負荷の低減を図った製品を開発しました。



オフィスシーティング「CYNARA」



最小限の部品と軽量設計



マルチワークブース「co-comori」



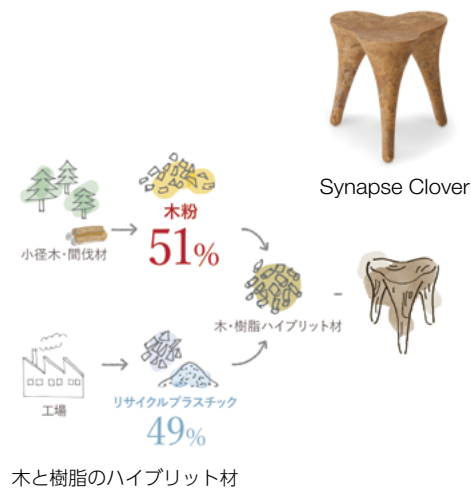
薄型天板テーブル「nel」

人が活きる環境の創造

間伐材と再生樹脂から生まれた製品の開発

オカムラでは、未利用材や再生材などを有効に活用することにより、環境に配慮した製品の開発に取り組んでいます。「Synapse Clover(シナプスクローバー)」は、原材料の51%に間伐材や小径木の木粉、49%に再生樹脂を使用し、これらを混ぜ合わせて成型したスツールです。木材と樹脂のハイブリット材を使用することで、木の風合いを残しながらも傷が付きにくい特性が生まれ、耐久性を確保することが可能になりました。日本を代表する家具デザイナーである藤江和子氏によるデザインで、クローバーのようなユニークな形状と座りやすさに配慮しています。

間伐材や小径木を使用することは、森林の健全化を促すとともに地球温暖化の抑制につながり、再生樹脂を使用することで廃棄物の発生抑制と資源循環に貢献しています。



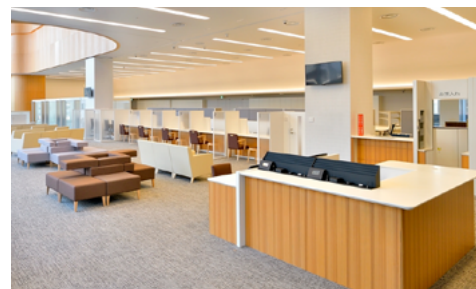
木と樹脂のハイブリット材

オフィス空間での国産材活用の推進

オカムラグループは、持続可能な木材利用を進めることにより、自然環境保全と地球温暖化の抑制に貢献するとともに、健全な森の育成と地域産業の活性化に結びつけるため、国産材の利用促進に取り組んでいます。より多くのお客様に木製の家具を使っただけ、木の温かみや風合いと、心身に与える優れた効果を伝えるために、都市部のオフィスを中心に国産木材活用製品の普及に努めています。

また、オカムラはみなとモデル二酸化炭素固定認証制度*登録事業者となっており、東京都港区と協定を締結した自治体からの木材等の利用を通じて低炭素社会の実現に寄与しています。

(関連→P.93)



福井県産のスギ材を使用した福井銀行本支店様の受付

*みなとモデル二酸化炭素固定認証制度:東京都港区内の建築物等における国産材の利用を促進し、CO₂固定量の増加と国内の森林整備の促進を通じて地球温暖化防止に貢献することを目的とする認証制度

人が活きる環境の創造

「WELL PLUS」マークの設定

人が健康でかつ快適に過ごせる場であるかどうかを評価するシステムであるWELL認証*が、オフィス空間の評価基準として近年広がりを見せています。オカムラでは、WELL認証の取得をサポートする製品に「WELL PLUS」マークをつけて提案し、お客様のオフィス改善、オフィス構築を支援しています。

*WELL認証 (WELL v2 pilot) :空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い住環境の創造をめざしたオフィス空間等の評価システム。総合得点によってプラチナ、ゴールド、シルバーの3種類にランク付けされる。米国の公益企業IWBI(The International WELL Building Institute) により2014年にスタートしたもので、2018年には評価項目や基準を見直したバージョン2 (WELL v2 pilot) がリリースされ、「空気」「水」「食物」「光」「運動」「温熱環境」「音」「材料」「こころ」「コミュニティ」という10個のコンセプトで評価される



「WELL PLUS」マーク

オフィス環境でのCMF(カラー・マテリアル・フィニッシュ)の提案

CMFとは、モノのサーフェイス(表面)を構成する3つの要素のことで、Color(赤・青・黄などの色)、Material(木・樹脂・金属などの素材)、Finish(光沢・マットなどの仕上げ)を指します。オカムラでは、ワクワクやドキドキを感じられるオフィス環境が、創造性を育み、効率性をもたらすとの観点から、オフィスが素材の力で感性を刺激する場所であってほしいと考えています。また、じっくり集中や活発なコラボレーション、力を抜いてリラックスなど、それぞれの行動にはそれぞれに適したCMFがあると考え、製品開発や空間構築に取り入れています。一人ひとりが作業や目的に合った場所を選び、のびのびと働ける「はたらき心地」のよい空間をCMFの視点から提案しています。



CMF

<https://www.okamura.co.jp/product/cmf/index.html>

人が活きる環境の創造

社会からの評価

オカムラグループは、ものづくりにこだわり、お客様に満足いただける製品を社会に送り出してきました。機能性や安全性、耐久性、信頼性などと同時に外観の美しさを重視し、製品のあるべ

き姿を追求する、という開発に対する姿勢は国内外で高く評価され、これまでに数々の表彰や認定を受けています。

HiP Awards at NeoCon*

**HiP Awards 2020 at NeoCon ワーク
プレイス:タスクシーティング部門 Winner
受賞** (2020年6月)

- オフィスシーティング「Finora(フィノラ)」

* HiP Awards at NeoCon:INTERIOR DESIGN誌が主催する表彰プログラム。世界最大規模のオフィス家具見本市であるNeoConでの発表製品とデザイナーなどの業界で活躍する人々の中から、カテゴリー別に革新的な製品や業界への功績を評価し選定される



グッドデザイン賞*

2020年度 グッドデザイン賞 受賞
(2020年10月)

- オフィスデスク「SOLISTE(ソリスト)」
- 一人用ワークブース「drape(ドレープ)」
- 充電システム什器「Smartcharge(スマートチャージ)」
- ラボシステム「PISTE(ピスト)」

* グッドデザイン賞:公益財団法人日本デザイン振興会が主催する総合的なデザイン推奨制度で、「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じて、くらし、産業、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とする



**GOOD DESIGN
AWARD 2020**

DFA Design for Asia Awards*

**DFA Design for Asia Awards 2020
Merit Award 受賞** (2020年11月)

- ミーティングテーブル&チェア「Marca(マルカ)」

* DFA Design for Asia Awards:香港デザインセンター (Hong Kong Design Centre) の主催により2003年から実施されている国際的なデザイン賞。デザインの卓越性をたたえ、アジアの視点で優れたデザインを表彰するプログラム



“超”モノづくり部品大賞*

**2020年“超”モノづくり部品大賞 生活・
社会課題ソリューション関連部品賞 受賞**
(2020年12月)

- スライディングウォール「Flair(フレア)」

* “超”モノづくり部品大賞:モノづくり日本会議、日刊工業新聞社が主催し、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下での力持ち」的存在の部品・部材を対象に表彰を行う制度。2003年に「モノづくり部品大賞」として創設され、2008年から現名称となり、「機械・ロボット」「電気・電子」「モビリティ関連」「環境・資源・エネルギー関連」「健康福祉・バイオ・医療機器」「生活・社会課題ソリューション関連」の6分野が表彰対象となっている



FX International Interior Design Awards*

**FX International Interior Design
Awards 2020 Public, Leisure or
Office Furniture部門 入賞** (2020年12月)

- ソファシリーズ「NAGARE」

* FX International Interior Design Awards:イギリスのデザイン誌『FX Magazine』が主催する20年以上の歴史を持つデザイン賞



Best of Year Awards*

**Best of Year Awards 2020
TASK SEATING部門 入賞** (2020年12月)

- ソファシリーズ「NAGARE」

* Best of Year Awards:INTERIOR DESIGN誌が主催する、投票制のデザイン業界のデザイン賞プログラム。作品カテゴリー別にその年の革新的な製品や業界への功績を称えらるとともに、デザイナー、建築家、メーカーを表彰する



人が活きる環境の創造

GOOD DESIGN*

GOOD DESIGN 2020 (Furnitureカテゴリー) 受賞

(2021年1月)

- オフィスデスク「SOLISTE(ソリスト)」
- ソファシリーズ「NAGARE」
- ミーティングテーブル&チェア「Marca(マルカ)」

* GOOD DESIGN: The Chicago Athenaeum: Museum of Architecture and Design (シカゴ・アテナイオン建築・デザイン博物館)の主催により1950年から始まった、世界で最も歴史の長い国際的に権威のあるデザイン賞。革新的なデザイン、新技術、フォルム、素材、アーキテクチャ、コンセプト、機能、審美感などの面から専門の審査員によって審査が行われる

UNIVERSAL DESIGN COMPETITION*

BEST OF DECADE universal design company

- 株式会社オカムラ

UNIVERSAL DESIGN EXPERT 2021、 UNIVERSAL DESIGN CONSUMER 2021 受賞 (2021年3月)

- オフィスデスク「REGAS(リーガス)」

* UNIVERSAL DESIGN COMPETITION: ドイツのInstitute for Universal Designが主催し、誰もが使いやすいというユニバーサルデザイン面での優れた特徴に加えて、革新性や市場性なども加味して受賞製品が選定される。審査はユニバーサルデザインの専門家グループと一般消費者100名が行い、それぞれ「UNIVERSAL DESIGN EXPERT」と「UNIVERSAL DESIGN CONSUMER」を選定。「BEST OF DECADE universal design company」は、ユニバーサルデザインの原則と哲学にのっとり長年貢献してきた企業に与えられる



レッドドットデザイン賞*

2021年プロダクトデザイン部門 Best of the Best 受賞

(2021年4月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナアラ)」

2021年プロダクトデザイン部門 受賞 (2021年4月)

- オフィスシーティング「CYNARA(シナアラ)」
- オフィスデスク「REGAS(リーガス)」
- マルチワークブース「co-comori(ココモリ)」
- デザインテーブルシリーズ「nel(ネル)」

* レッドドットデザイン賞: ドイツの「ノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンター」が主催し、1955年より実施されている世界でも最大級かつ最も権威あるデザイン賞のひとつ。「プロダクトデザイン部門」「デザインコンセプト部門」「コミュニケーションデザイン部門」の3部門において、革新性、機能性、品質、人間工学などのさまざまな側面から審査が行われ、特に優れている作品には「Best of the Best」が授与される



reddot winner 2021
best of the best



reddot winner 2021

iFデザイン賞*

iFデザインアワード2021 受賞 (2021年4月)

- アクティブラーニングチェア「SALITRO(サリトロ)」&立ち姿勢サポートデスク「Stafit(スタフィット) II」

* iFデザイン賞: iF International Forum Design GmbHが主催し、毎年全世界の工業製品の中から優れた工業デザインに与えられる世界的な権威のある賞



オカムラのものづくりにおける「企画・研究・リサーチ」、「デザイン」、「製造」の過程や様子や、さまざまな製品の開発に至る経緯や想いが語られる「Product Story」、受賞したアワードと製品を一覧「Award」などを紹介しています。

Make with オカムラのものづくり

<https://www.okamura.co.jp/company/products/makewith/>

人が活きる環境の創造

TOPICS

好ましい姿勢で働くことをサポートするオフィスデスク

オカムラでは、1980年より働き方や働く空間に関する研究機関を設置し、働く際の身体の姿勢に関しても調査・研究を続けてきました。研究成果は各種学会や研究会、2015年発刊の書籍『The Posture はたらく姿勢を考える』などで発表しており、快適な環境で気持ちよく働くことができる製品の開発に生かしています。

オカムラが提案する5つの働く姿勢（低座・後傾姿勢、基本姿勢、前傾姿勢、半立位姿勢、立位姿勢）を1台のデスクでカバーできないだろうか、という視点から開発がスタートしたのが、オフィスデスク「REGAS（リーガス）」です。「REGAS」は、天板の上下昇降機能と傾斜角度最大15度の傾斜機能、水平天板を1台に搭載しました。多様な体格の利用者や立つ・座るなどのさまざまな姿勢に対応し、パソコンによる作業や筆記作業などそれぞれのシーンで最適な姿勢をサポートします。アンケートの結果、天板を傾斜するとパソコンやタブレット端末の画面が見やすく操作がしやすいと、約7割の人が回答しています。また、水平天板には飲み物や書類を置いたまま業務ができ、天板の上下昇降動作に追従する屋根付きのルーフパネルを使用すると向かいからの視線が遮られるため、集中して作業を行うことができます。

個人の体格やさまざまな作業に応えられるデスクを使用することにより、ワーカーが好ましい姿勢を保つことができ、作業負荷の軽減や業務効率の向上にもつながります。

この製品は、誰もが使いやすいというユニバーサルデザイン面での優れた特徴に加えて、革新性や市場性なども加味して選定されるドイツの「UNIVERSAL DESIGN competition」において、ユニバーサルデザインの専門家を選定する「UNIVERSAL DESIGN EXPERT」と一般消費者100名を選定する「UNIVERSAL DESIGN CONSUMER」を受賞しました。



オフィスデスク「REGAS（リーガス）」



作業性を考慮し傾斜させた天板



視線を遮るルーフパネル

移動間仕切の部品が受賞

移動間仕切「Flair（フレア）」が、「2020年“超”モノづくり部品大賞」において「生活・社会課題ソリューション関連部品賞」を受賞しました。「“超”モノづくり部品大賞」は、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在の部品・部材を対象にした顕彰制度です。

「Flair」は、透過性と遮音性を両立し操作も簡単なダブルガラス（二重ガラス）の移動間仕切で、間仕切パネルを移動したあとに固定する際に床と天井との隙間を埋めて遮音性を高めるための上下圧接機構が内蔵されています。高さわずか28mmのフレームに内蔵するための小型化が評価されました。

コア部品であるパネを従来の1段コイルパネから多段コイルパネに変更することにより、小型化を実現するとともに、従来と同等の弾性と遮音効果を確保することができました。



スライディングウォール「Flair」

人が活きる環境の創造

イノベーションの推進と新しい価値の創造

オカムラグループは、「人を想い、場を創る。」を掲げ、さまざまな施設に優れた製品とサービスを提供することで、快適で創造性や効率性が高く健康に過ごせる最適な空間を提案しています。また、新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、共創による新たな事業の創出や情報発信を通して、新たな価値を創造していきます。

イノベーションの推進

働き方のデジタルトランスフォーメーション化

近年、働き方改革やデジタルトランスフォーメーションの推進によりさまざまな領域でIoT化が進み、オフィスなどでは快適性や生産性を高める働き方が追求されています。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、在宅勤務や対面を避けた業務など、企業における働き方が大きく変わり、事業継続性を担保するという観点からも、新しい働き方と働く場の構築やマネジメントの刷新が求められています。

オカムラは、株式会社ビットキーと共同で、ワーカーのIDであらゆる空間・モノ・データをコネクして、働く環境を取り巻くさまざまなシステムを統合するマネジメントシステム「Work x D(ワーク・バイ・ディ)」を開発しました。オフィスなど働く空間のデジタル化と普及が進むさまざまなデジタルサービスをつなげることで、企業と従業員の多様な働き方を統合的に支援するシステムを構築します。

施設管理者は、ファシリティマネジメントの充実が可能になり、ワーカーは、ひとつのID、ひとつのアプリケーションにより、快適で効率的な働き方が可能になります。オフィスが分散化し、リモートで働く人々とオフィスで働く人々が混在するニューノーマルに向けて、新しい働き方と働く場のデザインを、デジタルの力でつなげていきます。

Work x D
ワーク・バイ・ディ
design. work. digital. future

コワーキングスペース「point 0 marunouchi」が WELL認証のゴールドランクを取得

オカムラが出資する株式会社point0が運営しているコワーキングスペース「point 0 marunouchi」が、オフィスなどの空間を評価・認証する「WELL認証(WELL v2 pilot)」*のゴールドランクを取得しました。今回の取得は、同じく株式会社point0に出資しているダイキン工業株式会社、パナソニック株式会社ライフソリューションズ社とともに、3社の異なる得意分野である、空気・空間、ファニチャー、照明におけるノウハウ・技術・商品を駆使することで実現しました。

空気・空間では、各エリアや個室の換気量が認証基準を満たすように設計段階からレイアウトを配置し、高性能の空気フィルターを増設するなど空調換気システムを強化し、良質な空気を維持。ファニチャーでは、人間工学に配慮した調整機構を備えるオフィスチェアや電動上下昇降機構を備えるオフィスデスクにより、働くための適切な姿勢と座り過ぎを防ぐ働き方を実現。照明では、シミュレーションツールを活用して認証基準を満たすように器具選定と照明計画を実施し、グレアを防ぎながらサーカディアンリズムに配慮することで、健康に配慮した快適な照明空間を実現しました。

認証取得過程で得られた知見やノウハウを活かし、働く人の心身の健康をより重視したオフィス空間の実現に向け提案を行っています。

*WELL認証(WELL v2 pilot):空間のデザイン・構築・運用に「人間の健康」という視点を加え、より良い住環境の創造をめざしたオフィス空間等の評価システム。総合得点によってプラチナ、ゴールド、シルバーの3種類にランク付けされる。米国の公益企業IWBI(The International WELL Building Institute)により2014年にスタートしたもので、2018年には評価項目や基準を見直したバージョン2(WELL v2 pilot)がリリースされ、「空気」「水」「食物」「光」「運動」「温熱環境」「音」「材料」「こころ」「コミュニティ」という10個のコンセプトで評価される



コワーキングスペース「point 0 marunouchi」

人が活きる環境の創造

テレワークやWebでの採用面接に活用できる空間を提供

近年、働き方改革の推進等を背景にテレワークが注目を集めており、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、さらにニーズが高まっています。また、就職活動においてもWebによる面接が行われるケースが増えてきています。一方、住居スペース等の制約により、在宅勤務においては業務効率などの面で課題も生じており、就職活動においては面接を受ける際に自宅では集中できる環境を確保できないといった声も聞かれます。

このような状況を踏まえ、オカムラは、テレキューブサービス株式会社、テレキューブ株式会社、株式会社ブイキューブ、三菱地所株式会社と共同で、2020年10月1日～2021年3月31日の期間、実証空間として「テレキューブWeb会議センター」を開設しました。「テレキューブWeb会議センター」は、2019年より展開している個室型スマートワークブースを活用した新しいテレワークスペースの提案およびニーズの検証を目的としており、Web会議・面接等に集中できる快適な防音個室を、集合形式で新丸の内ビルに9台、豊洲フォレシアに6台設置しました。また、タブレット端末やWi-Fi、ライティング機器の設置に加え、パソコンなどを持参しなくてもWeb会議・面接等ができるサービスを提供し、安心して快適に外部とコミュニケーションが取れる、付加価値のある空間を提供しました。

また、麗澤大学様では、新しい就職活動の形にも柔軟に対応すべく2021年4月にキャリアセンターを全面リニューアルし、Webでの採用面接対応のための個室ブースを5台設置いただきました。そのうち1台はバリアフリー対応で、車いすに対応した個室ブースになっています。

今後も多様な働き方やニーズに対応した快適な環境の研究を進め、製品やサービスの提供に結びつけていきます。



テレキューブWeb会議センター



麗澤大学様に車いす対応の個室ブースを納入

人が活きる環境の創造

働き方に関する調査・研究と情報発信

社会構造の変化や技術の進歩、ライフスタイルの多様化などを背景に、働き方や働く場のあり方、生活における仕事の位置づけなどを見直す動きが広がっています。オカムラではこうした状

況を踏まえ、新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、さまざまな企業、学生など広範な分野の人との連携や情報発信を進めています。

TOPICS



働き方・働く場に関する調査結果や指針となるレポートの公開

オカムラでは、1980年より働き方や働く空間に関する研究機関を設け調査・研究を続けており、各種学会や研究会、「はたらく」を変える活動「WORK MILL」などを通して、研究結果や知見を広く社会に発信しています。

新型コロナウイルス感染拡大により、多くの企業がワークスタイルを見直し、在宅勤務をはじめとするリモートワークの導入やシェアオフィス利用など新たな働き方やワークプレイスのあり方を検討しています。こうした状況を踏まえオカムラでは、リモートワークに関する調査結果や、これからの働き方・働く場を考える指針となるレポートを公開しました。

【主なレポートと発行時期】

- 柔軟な働き方の効果検証「新型コロナウイルス感染症対策としての在宅勤務調査速報版」(2020年4月)
- 柔軟な働き方の効果検証「新型コロナウイルス感染症対策としての在宅勤務調査 会議版」(2020年4月)
- 「アフターコロナにむけたワークプレイス戦略」(2020年5月)
- 柔軟な働き方の効果検証「ウィズコロナの働き方と働く場」(2020年5月)
- 柔軟な働き方の効果検証「新型コロナウイルス感染症対策としての在宅勤務調査 緊急事態宣言前後の変化版」(2020年6月)
- NEW NORMAL WORKPLACE PRINCIPLE / ニューノーマルのワークプレイスを考える指針」(2020年9月)
- 柔軟な働き方の効果検証「ニューノーマルの働き方、働く場のデータ集」(2020年10月)
- 「NEW NORMAL LEARNING SPACE～ニューノーマルの学びの場を考える～」(2021年2月)
- 柔軟な働き方の効果検証「長期化する新型コロナ対策下での働き方・働く場 データ集」(2021年3月)



ニューノーマルのワークプレイスを考える指針

これらのレポートはウェブサイトよりダウンロードできます。

オカムラ オフィス構築ソリューションサイト 資料ダウンロード一覧
<https://workplace.okamura.co.jp/solutions/download/>

外部機関との共同調査・研究

オカムラは、さまざまな企業・研究機関・大学などと共同で働き方や働く空間に関する調査・研究を行っており、調査結果や知見を社会に発信するとともに事業活動に反映しています。

公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所と共同で2018年10月より開始したオフィス環境改善による働き方改革に関する実証実験では、オフィス施策による座りすぎ解消の効果やオフィス移転に伴う健診データへの影響についての調査結果が

得られました。これらの研究結果は、それぞれ2020年1月と2021年2月に国際学術雑誌に掲載されました。また、オカムラの「はたらく」を変える活動「WORK MILL」では、日鉄興和不動産株式会社が運営するシングルライフのための暮らし・住まいの研究所「+ONE LIFE LAB」と共同で単身者のワークスタイルに関する研究を行い、研究結果を商品開発につなげています。

人が活きる環境の創造

WORK MILL(ワークミル)の活動

これからの働き方を探る上で、生産性を高める仕組みづくりや意識の改革など、さまざまなアプローチに加え、「働き方」と密接に関わる「働く場(ワークプレイス)」をどのように設計し、また改善していくか、という視点も重要です。こうした考えからオカムラは、働き方や働く場をさまざまなステークホルダーと共に描くことを目的とした活動「WORK MILL」を推進しています。

「WORK MILL」では、働き方や働く場に関する情報を収集して実態や課題を把握し、働く場の設計を通じてできることを探求し続けています。また、蓄積したデータや調査結果、研究結果などを、ウェブマガジンやビジネス誌の発刊、共創空間の運営を通じて発信し、活動を通じて新たな「はたらく」のヒントを得ながら、明日の社会を見つめ、考え、行動へとつなげています。

共創空間での活動

オカムラは「はたらく」をテーマとした共創空間として、Open Innovation Biotope“Sea”(東京)、“Cue”(名古屋)、“bee”(大阪)、“Tie”(福岡)の4カ所を開設、運営しています。ウェブサイトなどでイベント情報を公開し、誰でも参加できる場としての機会提供のほか、お客様や地域の方、学生などさまざまな方の課題解決や価値創造のニーズにお応えする共創活動を行っています。働き方改革につながる支援を目的として、「はたらく」を中心とするテーマでイベントやワークショップなどを開催しており、社内企画だけでなく外部企画の共催・協力など、外部のパートナーとも連携して活動を進めています。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大リスクを考慮し、オンラインでイベントを開催し、共創空間を開設している地域以外の多くの方にもご参加いただきました。

【各共創空間での共催イベントの例】

- WORK MILL Event リアルの場の価値再考「オフィス編」「ワーキングスペース編」「共創空間(セッションスペース)編」3回開催(2020年6~7月、Sea)
- Sea Academy「日本航空(JAL)が取り組む健康経営とは!? ~JALの企業理念とウェルネスから学ぶ~」他11回開催(2020年4月~2021年1月、Sea)
- 「Cue Dream Project produced by 愛知プロボノ・イニシアティブ」10回開催(2020年12月~2021年3月、Cue)
- 「ナゴヤ100人カイギ」Vol.7~11(2020年6月~2021年2月、Cue)
- 「マイプロ中部×Cue」(2020年7月~2020年12月、Cue)
- 「ラクワク思考×映画#01~04」大阪大学との共催(2020年4月~7月、bee)

WORK MILL

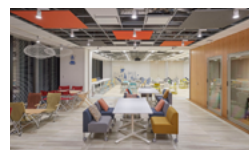


「WORK MILL with Forbes JAPAN」EXTRA ISSUE(2020年6月)、ISSUE 06(2021年4月)



「WORK MILL RESEARCH ISSUE 02」(2020年11月)

「はたらく」にまつわる意識調査や研究結果のダウンロードサイト
<https://workmill.jp/research.html>
<https://workplace.okamura.co.jp/solutions/download/>



<https://sea.workmill.jp/>



<https://cue.workmill.jp/>



<https://bee.workmill.jp/>



<https://tie.workmill.jp/>

- 学問のすすめ「学びの深化で進化しよう!現代版学問のすすめ vol.01~02」(2020年6月・8月、bee)
- 「はたらく」×bee×KOBE「"女性のはたらき方"から生まれる、"未来のはたらき方"とは?」(2020年11月、bee)
- 福岡での働き方2.0「副業・複業実践者に聞く!『人生100年時代』とは『自分の幸せ』を考えること」(2020年4月、Tie)
- Tie×スポーツ「わたしたちのNEXT STEPへ向けて~あきらめない気持ちとは~」(2020年7月、Tie)
- Tie×事業構想大学院大学「今こそ考えたい事業構想~ポストコロナ~」他(4回、2020年5月~2021年2月、Tie)

人が活きる環境の創造

「サステナブル・ブランド国際会議 2021 横浜」に協賛・出展

オカムラは、2021年2月24日～25日にパシフィコ横浜ノースで開催された「サステナブル・ブランド国際会議2021 横浜」に協賛し、ブース出展とセッションへの登壇を行いました。今回は徹底した感染症対策のもと、リアル展示とオンラインのハイブリッド方式で実施されました。

オカムラのブースでは、「WORK MILL」の活動とデジタルトランスフォーメーションサービス「Work x D」を紹介するパネルを展示。他業種の企業の担当者や学生をはじめさまざまな来場者から質問を受けるなど、高い関心を持っていただきました。ブレイクアウトセッションへの登壇もあり、オカムラの働き方改革やこれからの働き方を紹介しました。

また、同時開催の「第3回未来まちづくりフォーラム」のセッションでは、「WORK MILL」におけるマンションなどに働く空間をつくる取り組みやワーケーションの取り組みなどさまざまな共創活動を紹介しました。「未来まちづくりフォーラム」には昨年に続く参加となり、多くの方々へオカムラの取り組みを発信しました。



オカムラブースの様子

人が活きる環境の創造

さまざまな環境の構築と提案

オカムラがめざす働き方と働く場「ラボオフィス」

オカムラでは、働き方を考える上で、働く「ひと」を中心に据え、その人の能力を最大限に発揮できるよう、「制度」「テクノロジー」「環境」の3要素を総合的に改革していくことが重要だと捉えています。オカムラの働き方改革の取り組み「WiL-BE(ウィル・ビー)」においては、この考え方に沿って「Human Development(ひと)」「Work Rule(制度)」「Work Smart(テクノロジー)」「Work

Place(環境)」の4つのアクションを展開しています。「Work Place(環境)」アクションの一環として、社内拠点を整えるサポートや、柔軟な働き方を実践するための環境整備を進めています。オカムラでは新しい働き方や環境を提案・実証する働き方改革の実践の場として「ラボオフィス」を複数拠点で展開しており、それぞれ異なるコンセプトを設けて活動を行っています。

「ラボオフィスの例」



「HEADQUARTERS OFFICE」(東京・赤坂)

スタッフやクリエイティブを含めた全部門で、仕事の目的や内容に応じて最適な働く場を選択する「Activity Based Working(ABW)」を実践。さまざまな部門が領域を越えて交わることにより、最大限にクリエイティビティを発揮します。



「CO-RiZ LABO(考率ラボ)」(東京・京橋)

部門や世代の壁を越えて個人と個人がタッグを組み、組織として“考率”的に最高のパフォーマンスを引き出します。



「CO-REKA LABO(コレカラボ)」(東京・日比谷)

これからのオフィスでのニューノーマルな働き方を実験検証し、提案を行っています。



「WORK HARBOR YOKOHAMA(ワークハーバー横浜)」(神奈川・横浜)

横浜駅直結の利便性を生かし、サテライト重要拠点としても整備された環境です。

人が活きる環境の創造

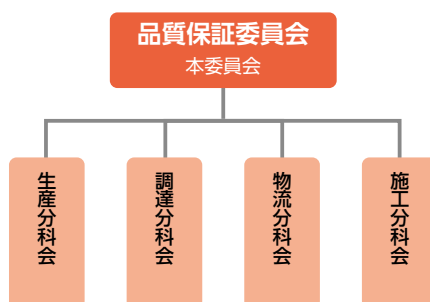
品質管理の徹底

オカムラグループは、品質向上に向け全社的な推進体制を構築し、品質マネジメントシステムの運用や評価体制の整備を通じて品質管理の徹底を図り、安全で高品質な製品の提供に努めています。

お客様満足度向上に向け全社一貫した品質活動を推進

オカムラグループでは、お客様に「確かな品質」を提供するために、調達から生産、物流、施工まで一貫した品質活動を推進しています。これまでも各部門において品質課題に取り組んできましたが、さらなるレベルアップを図ることを目的に、新たに全社的な推進組織として品質保証委員会および分科会を設置し、サプライチェーン全体を通じた品質の向上に取り組んでいます。また、品質に関してお客様から寄せられたご要望に的確に対応するために、部門間で連携した改善活動を展開し、お客様満足度向上につなげています。

品質保証委員会の組織図



国際品質保証規格ISO9001による品質マネジメント

オカムラグループの事業分野全体における製品品質の継続的な向上を図るため、海外を含めた各生産事業所においてISO 9001*の認証を取得し、同規格に基づく品質マネジメントシステムを構築・運用しています。

品質マネジメントシステムの運用にあたっては、ステークホルダーの皆様から寄せられた数々のご意見を企画から設計、製造の各段階に反映させ、製品の機能性・安全性・耐久性を評価しながら、

継続して品質の向上に取り組んでいます。

また、製造工程における高い品質水準の力を確保するための社内資格の整備や、必要なノウハウを共有するためのデータベース構築等により、お客様に満足いただける製品を確実に提供するための体制を整えています。

* ISO9001:国際標準化機構 (ISO) が定める品質マネジメントシステムの国際規格

グローバル規格による製品評価

オカムラでは、お客様に製品を長く安心して使っていただくために、より厳しいグローバル規格を社内基準に取り入れ、試作段階から性能試験と耐久性試験を繰り返し行い、製品の品質と安全性を評価・確認しています。お客様が製品を使用されるさまざまなシーンを想定して、シーティングにおいては、座、背、肘等の各部位に対して試験を実施し、厳格な基準による評価を行っています。



BIFMA規格による肘耐久試験

人が活きる環境の創造

ものづくりを支える人財育成

オカムラグループは、生産現場でのものづくりを支える優れた人財の育成に向け教育訓練体制を整備し、長年にわたって培ってきた高度な技術・技能の継承に努めるとともに、従業員の資格取得も重視し、全体のレベルアップを図っています。

技術技能訓練センター

高品質の製品を支える優れた人財を育成するために、2011年に技術技能訓練センターを開設し、各種プログラムを通じてものづくりに携わる従業員の教育を行っています。

受講者数は年間約300名にのぼり、対象となる従業員は通常の業務から完全に離れて集中的に教育を受けます。例えば、基礎技能分野の「リーダー育成コース」は、ものづくりにおける精度・品質を確保するための原理原則について、2カ月間かけて習得す

るカリキュラムとなっています。熟練の講師陣から直接指導を受けることができるため、ものづくりに取り組む姿勢も学ぶことができ、現場力の向上につながっています。

また、新入社員研修において、営業職やデザイナーなどが参加する集合研修を同センターで実施し、ものづくりにおける考え方や姿勢を学ぶ機会を設けています。

技術・技能の継承

各生産事業所では、ものづくりに必要な高度な技術・技能の継承に努めています。生産活動が安全かつ円滑に行われるとともに、製品の品質を維持・向上させるために、各職場でスペシャリストを育成しています。

「現代の名工」による技術・技能の継承

技術技能訓練センターのセンター長の畑岡耕一は、1966年に入社して以来、オフィス家具の試作や設計業務に従事。業界初となる軟質発泡ウレタン表皮一体成形工法を確立するなど、日本のオフィスチェアの機能やデザインの向上のために力を注ぎました。その功績が認められ、2016年に「卓越した技能者（現代の名工）」^{*1}として表彰されました。現在も後進の育成に情熱を注ぎ、ものづくりの技能を継承しています。

また、厚生労働省の若年技能者人材育成支援等事業（ものづくりマイスター制度）^{*2}に基づく「ものづくりマイスター」にも認定・登録されており、学生のみならず工業高校の教諭の方々にも技術の指導を行ってきました。今後も、オカムラが培ってきた技能や社内の人財の優れた能力、経験を生かしながら、若年技能者の育成に貢献していきます。



センター長の畑岡による指導の様子

*1 「卓越した技能者（現代の名工）」表彰制度：技能者の地位と技能水準の向上を図ることを目的として、卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者を厚生労働大臣が表彰する制度

*2 若年技能者人材育成支援等事業（ものづくりマイスター制度）：ものづくりに関して優れた技能、経験を有する者を「ものづくりマイスター」として認定・登録し、「ものづくりマイスター」が技能競技大会の競技課題などを活用して中小企業や学校などで若年技能者への実践的な実技指導を行い、効果的な技能の継承や後継者の育成を行う事業

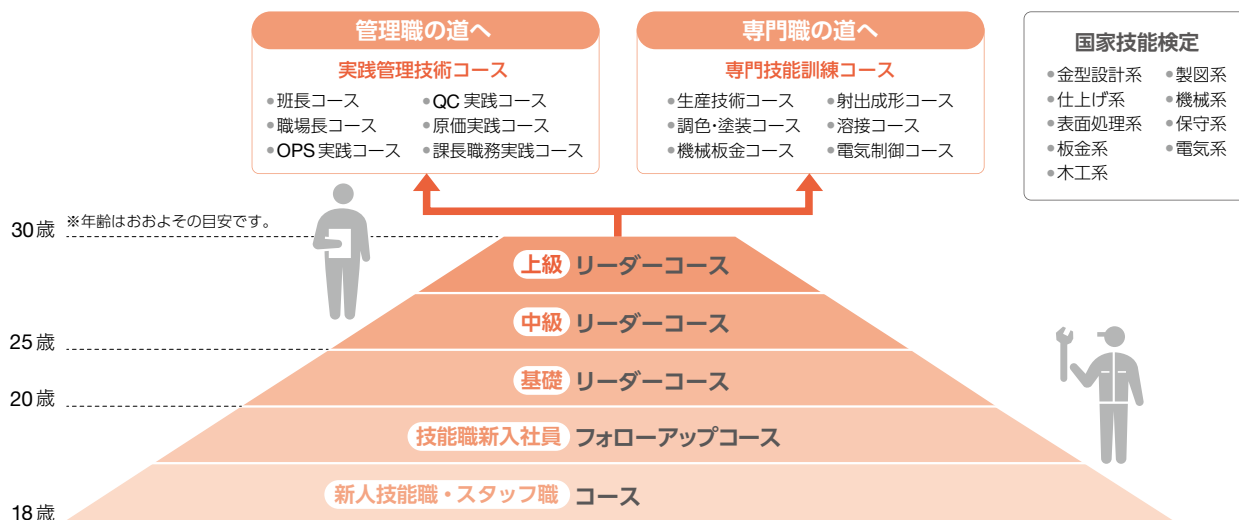
人が活きる環境の創造

国家技能検定資格取得の強化

オカムラグループでは、従業員の国家技能検定の取得促進にも力を入れており、これまでの合格者数は延べ800名を超えています。技術技能訓練センターでは、電気系、板金系、表面処理系、金型設計系、製図系の国家技能検定に対応できるコースを用意

し、生産事業所の実務経験3年以上の希望者が受講できるようにしています。資格取得者については、すべての事業所で社内ボードに取得状況を掲示、従業員の取得意欲の向上を図っています。

技術技能訓練センターでの教育プログラム



技能五輪全国大会出場を通じた技術・技能の向上

技能五輪全国大会は、次代を担う青年技能者に努力目標を与え、大会開催地域の若年者に優れた技能を身近に触れる機会を提供することを目的とした技能競技大会です。オカムラでは、地域ごとの予選会を経て2013年から連続で全国大会への出場を果たしています。この大会での受賞を目標に訓練を重ねることが、技術・技能の向上、また職場における指導力の向上にもつながっています。

人が活きる環境の創造

改善活動を通じた人財育成「OPS活動」

オカムラグループの生産事業所では、ものづくりの合理性を徹底追求した生産方式である「OPS(オカムラプロダクションシステム) 活動」を全員参加で推進し、生産現場における人財の育成につなげています。

OPSの根底に流れているのは、徹底したムダの排除の思想です。安全確保を基本に、ムダのある工程を改善し、働きやすい職場環境はもとより、品質の向上、少ない資源・エネルギーによる生産プロセスを追求し、生産効率を高めています。こうした活動を通じて、ムダの存在を的確に把握し、ムダをなくせる人財の育成を図っています。

各生産事業所では、OPSに関する知識の習得を目的として、2015年から「OPS人材マップ 改善手法解説書」による勉強会を実施しています。また、「OPS実践コース」、「育成自主研究会」など、若手従業員を対象とした実践の場を設け、改善活動を推進する人財を育成しています。

生産事業所全体で行う「OPS月次報告会」では、日々取り組んでいる改善事例を報告しており、こうした機会を設けることで改善への意欲向上と現場力の向上を図っています。また、1年の活動の成果を報告する「全社OPS発表会」では、優れた改善事例を全社で共有し、水平展開を図ることにより生産現場全体のレベルアップにつなげています。



OPS報告会



全社OPS発表会(2020年2月)